

実力判定テスト 国語5年

一

次の1～5の傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- 1 去年の赤字を相殺するほどの利益を得る。
- 2 身の潔白を証明する。
- 3 祖父母の家に遊びに行く。
- 4 むだな消費を省く。
- 5 多くの部員を率いる。

二

次の1～4の傍線部のカタカナを漢字で答えなさい。必要であれば送りがなも書きなさい。

- 1 予想をテキチユウさせる。
- 2 彼女はハクシキだ。
- 3 来客をコロヨク受け入れる。
- 4 (1) 国の民をオサメル。
- (2) 大学で物理学をオサメル。

三

次の問いに答えなさい。

問一. 次のことわざの□に当てはまる漢字一文字を答えなさい。また、(1)は似た意味、(2)は反対の意味を持つことわざとして最もふさわしいものを、あとのア～エより一つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 馬の耳に念□
- (2) 猿も□から落ちる

- ア. 弘法筆を選ばずこうぼう
イ. 転ばぬ先の杖つえ
ウ. 河童の川流れかっぱ
エ. ねこに小判

問二. 次の慣用句の□に共通して入る体の一部分を表す漢字を答えなさい。

- (1) □が高い・木で□をくくる
(2) ねこの□も借りたい・□を焼く

問三. 次の四字熟語の□に当てはまる漢字を、示されている意味に当てはまるようにそれぞれ一文字で答えなさい。

- (1) 絶□絶□ 意味…逃げることをできない、苦境に立たされること
(2) 前代□□ 意味…非常に珍しいこと
(3) □語道□ 意味…ことばに表せないほど程度がひどいこと
(4) □寒□温 意味…寒い日と暖かい日が交互に来る冬の天候のこと

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1 かつて自動炊飯器すいはんきが日本の家庭に普及ふきゅうしていった時代、日本の主婦しゅふの睡眠時間すいみんが一時間延びたそうのだ。一時間余計よけいに眠れることは、誰にとっても幸せだ。当時、炊飯器は大卒すいはんき*初任給しよにんきゅうの三割わりから四割相当の値段ねだんだった。*可処分所得かしよぶんとの比率で考えると、いまの価格かかくで八万円から一〇万円といった感覚だろうか。それでもボーナスが出れば、皆が炊飯器みな すいはんきを買い求め、「これは便利だ」と感嘆かんだんし、「よし、お父さんは、もっと頑張がんばって働くから次のボーナスでは冷蔵庫れいぞうこ買おうな」となって、日本の家庭から食中毒いっそうが一掃いつそうされていく。次は洗濯機せんたくきだということになって、日本のお母さんの手からあかぎれが消えていく。

2 *いまの中国がまさにそうであるように、巨大な物欲が消費を促し、企業はそこから利潤を上げ、その利潤が労働者にも還元されて、さらなる消費に結びつく。これが成長社会の①典型的なパターンだ。

3 ②モノが人を幸せにした時代である。

4 しかし、と私は学生たちに問いかける。

③「君たちはテレビが五センチ薄くなって幸せか？」

5 家電量販店の店頭に並ぶ様々な新製品は、格好良かったり、便利であったりはするけれど、万人が幸福になるようなものではない。もはや私たちは、④モノだけでは幸せにならない時代に生きている。格好良さは人それぞれに違うから、大ヒット商品は生まれにくい。このところ相次いで発表される家電各社の巨額の赤字の背景はここにある。

6 人びとはバラバラなままで生きていく。価値観は多様化する。ライフスタイルはさまざまになる。それは悪いことではないだろう。日本人はこれからどんどんと、バラバラになっていく。

7 しかし、人間は社会的な生き物なので、バラバラだけでは生きていけない。私たちはどうしても、社会生活を営んでいくうえで、地域社会で決めていかななくてはならないことがある。

8 いままでは、少なくとも一九八〇年代までは、遠く（霞が関で）、誰かが（官僚が）決めてくれていたことに、何となく従っていれば、いろいろ小さな不都合はあったとしても、だいた、みんなが幸せになれる社会だった。 、いまは、自分たちで自分たちの地域のことに ついて判断をし、責任を持たなければならぬ。その判断を誤ると、夕張市のように自治体でき ても潰れる時代が来てしまったのだ。

9 ただ、この一点が変わったために、日本人に要求されているコミュニケーション能力の質が、いま、大きく変わりつつあるのだと思う。いままでは、遠くで誰かが決めていることを何となく理解する能力、空気を読むといった能力、あるいは集団論でいえば「心を一つに」「一致団結」といった、「価値観を一つにする方向のコミュニケーション能力」が求められてきた。

10 、もう日本人はバラバラなのだ。

11 さらに、日本のこの狭い国土に住むのは、決して日本文化を前提とした人びとだけではない。

12 だから、^⑤この新しい時代には、「バラバラな人間が、価値観はバラバラなままで、どうにかしてうまくやっていく能力」が求められている。

13 私はこれを「協調性から社交性へ」と呼んできた。

14 「平田君は、自分の好きなことは一生懸命、集中して頑張るけれども、どうも協調性に欠けるようです」と小学校一年生から通信簿に書かれてきたような人間が、作家や芸術家になる。私自身、自分の好きなことしかやってこなかったし、協調性はないものと自覚している。

15 、演劇は集団で行う芸術なので、演劇人には「社交性」はあるのだ。私たちは、幕が下りるまではどんな嫌な奴とでも、どうにかして仲良くする。プロの世界などはひどいもので、舞台上では、「あなたがいなければ死んでしまうわ」と言っていて、楽屋に帰ればそっぽを向いている連中もたくさんいる。それでいい舞台ができるのなら、私としてはまったくかまわない。これもまた「社交性」だ。

16 しかしこの社交性という概念は、これまでの日本社会では「上辺だけのつきあい」「表面上の交際」といったマイナスのイメージがつきまとった。私たちは、「心からわかりあう関係を作りなさい」「心からわかりあえなければコミュニケーションではない」と教え育てられてきた。

17 しかしもう日本人は心からわかりあえないのだ……と言ってしまおうと身もふたもないので、たとえば高校生たちには、私は次のように伝えることにしている。

「心からわかりあえないんだよ、すぐには」

「心からわかりあえないんだよ、初めからは」

この点が、いま日本人が直面しているコミュニケーション観の大きな転換の本質だろうと私は考えている。

18 心からわかりあえることを前提とし、最終目標としてコミュニケーションというものを考えるのか、「いやいや人間はわかりあえない。でもわかりあえない人間同士が、どうにかして共有

できる部分を見つけて、それを広げていくことならできるかもしれない」と考えるのか。「心からわかりあえなければコミュニケーションではない」という言葉は耳に心地よいけれど、そこには、心からわかりあう可能性のない人びとをあらかじめ排除するシマ国・ムラ社会の論理が働いてはいないだろうか。

19 実際に、私たちは、パレスチナの子どもたちの気持ちはわからない。アフガニスタンの人びとの気持ちもわからない。

20 しかし、わからないから放っておいていいというわけではないだろう。⑥ 価値観や文化的な背景の違う人びとも、どうにかして共有できる部分を見つけて、最悪の事態である戦争やテロを回避するのが外交であり国際関係だ。

21 好むと好まざるとにかかわらず、国際化する社会を生きていかなければならない日本の子どもたちに、より必要な能力はどちらだろう。

22 もちろん協調性がなくていいとは言わないが、日本の子どもたちは世界標準から見れば、まだまだ集団性は強い方だ。ならばプラスαの能力として、これからの教育が子どもたちに授けていかなければならないのは、⑦ この「社交性」の方なのではないか。

(平田オリザ「わかりあえないことから―コミュニケーション能力とは何か」(講談社)より)

*初任給…就職して初めてもらう給料。

*可処分所得…収入から税金などを引いた、使い道の自由な部分。

*今の中国…本書が出版された2012年時点の中国を指す。

問一・傍線部①「典型的」は、この文章中でどのような意味で使われていますか。次から適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 物事のほかと変わっている点をよく表していること

イ 物事の基本的な特徴や本質をよく表していること

ウ 物事の大きく変化した点をよく表していること

エ 物事の小さな特徴をよく表していること

問二、文章中の に共通して入る接続詞で適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア だから

イ また

ウ しかし

エ すなわち

問三、傍線部③「君たちはテレビが五センチ薄くなつて幸せか？」と問いかけることで、筆者は

どのようなことを伝えようとしていますか。次から適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 新製品を次々と作らないと世界から置いていかれてしまうということ。

イ 人びとはバラバラなままで生きていくので、それぞれの価値観に合った商品を作り続けなければいけないということ。

ウ ヒット商品を生み出し続けないと家電会社は巨額の赤字を抱えてしまう

ということ。

エ 新製品を作ること万人が幸せになる時代は終わったということ。

問四、傍線部②「モノが人を幸せにした時代」と傍線部④「モノだけでは幸せにならない時代」

には、「協調性」と「社交性」のどちらが求められていますか。それぞれ考えて、適切なものを答えなさい。

問五、傍線部⑤「この新しい時代には、「バラバラな人間が、価値観はバラバラなままで、どうにかしてうまくやっていく能力」が求められている」とありますが、これに対して筆者はど

のような思いでいますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア そうなることは好ましいことなので、日本人は積極的にその能力を開花させていくべきだ。

イ そうなることは好ましいことではあるが、その能力の理解は前時代的であるため、変化させる必要がある。

ウ 自分たちの地域のことにについての判断に責任を持たなければならなくなるので、そうなることはあまり好ましいことではない。

エ 「価値観かちかんを一つにする方向のコミュニケーション能力のうりよく」が必要なくなってしまうので、そうなることは悪いことである。

問六、傍線部⑥「価値観かちかんや文化的な背景はいけいの違う人びとちが」を言い換えている部分を文章中から十七字で抜き出して答えなさい。

問七、傍線部⑦「この「社交性しゃこうせい」」では、どのような能力のうりよくの質が求められているか、これまでの日本社会が持っていたコミュニケーション観てんかんの転換てんかんを踏まえて、百字以内で説明しなさい。

問八、この文章において、筆者の言いたいことはどのようなことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 価値観かちかんや文化的な背景はいけいの違う人びとを心から理解し、協調性きょうちょうせいと社交性しゃこうせいの両方を持つて接すれば、国際社会の問題は回避かいひできるということ。

イ 価値観かちかんが多様化する社会においてシマ国・ムラ社会の論理ろんりを取り除くことで、人びとは心からわかりあえるということ。

ウ 人間は心からわかりあえないことを前提ぜんていに、できるだけ共有できる部分を見つけて広げていく能力のうりよくが現代の社会で重要であるということ。

エ 日本人はこれからどんどんバラバラになっていくので、社交性しゃこうせいを持った人びとがいろいろなことを決めていくのではないかということ。

問九、この文章を五つの部分に分けたとき、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア	1	1	1	1
	2	2	5	5
	/	/	/	/
イ	3	3	6	6
	13	13	13	13
	/	/	/	/
ウ	14	14	14	14
	17	15	17	15
	/	/	/	/
エ	18	16	18	16
	19	18	19	18
	/	/	/	/
	19	19	19	19
	22	22	22	22

問十、あなたは中学校に入学したら、どのように「社交性しゃこうせい」を身に着けていきたいですか。本文の内容を踏まえて、具体的に書きなさい。

五 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

見晴（みはる）「わたし・みっちゃん」とアキラは1号鉄塔とそこにあるはずの秘密（ひみつ）の原子力発電所を見
るために自転車（せま）で出かけます。しかし、68号から順（じゅん）に鉄塔をたどって22号まで来たとところ夕闇（ゆうやみ）が
迫（せま）ってきました。

「みっちゃん……」アキラがわたしの名を小さく呼びました。「ねえ、みっちゃん」

「え……？」

わたしはアキラを振り返（かえ）りました。アキラの顔は、弱い夕焼（ゆうや）けの色で仄（ほ）かに浮（う）き立（た）って見えま
した。アキラの淡（あわ）い目の輝（かが）きに、蛸（ひぐらし）の声やコオロギの高い音色（ねいろ）が重（おも）くなりました。

「もう帰ろう。夜になっちゃうよ」アキラは優（やさ）しく言いました。

「うん——」わたしはぼんやりと頷（うなず）きました。「残念（ざんねん）だな。ここまで来たのに」

「また来ればいいよ」アキラの唇（くちびる）の僅（わず）かな動きが、幽（かす）かにわたしにも見えたような気がしまし
た。

「そうだな……」わたしはもう1度対岸（あしもと）に目をやりました。いちだんと暗（く）さが増（ま）し、22号鉄塔も
足許（あしもと）が見えなくなっていました。

わたしたちは、どちらからともなく、河川敷（かせんしき）を見渡（みわた）す舗装路（ほそう）からゆっくりと引き換（か）えしていま
した。空に星（こぼ）が零（こぼ）れ始め、遠くで自動車のライトが移動（いどう）していました。

「家に帰（かえ）る頃は真（ま）っ暗（く）だな」とアキラが呟（つぶや）きました。

① 「おまえ、またここまで来る気ある？」 わたしは重い抑揚（よくよう）で尋（たず）ねました。

「みっちゃんは？」

「オレは来るけどさ」

アキラは返答（こた）に困（こま）っているようでした。「オレも来たいんだけど……」

「けど？」 わたしは次の言葉を待ちました。

「——わかんないなあ。そのときになつてみないと」アキラはペダルに立ち上がって、自転車を漕ぐ動作で言葉の□を逸らしました。

わたしは、自分の踏査探索の成果を確認したり評価してくれる相手が欲しかったこともあつて、1号鉄塔と原子力発電所までアキラと行きたかったのに、それはわたしの一方的な思い込みに過ぎなかったのです。もしも昼があと1時間か2時間長かったら、わたしたち2人は、1号結界の中で笑みを交わし、巨大な原子力発電所をいっしょに眺めることができたのだと想像すると、②崩れ去った夢が悔いのようにわたしを撃ちました。輝やかなしい陽射しに照らされた1号鉄塔と原子力発電所。そして1号鉄塔に至る武蔵野線の美しい鉄塔たち！それらは、現実にこの世に存在しながらも手の届かない対象として、わたしの限らない思慕を誘いました。

わたしたちは24号鉄塔附近の稲田まで戻っていました。夕闇の中に立つ24号鉄塔の*孤高で*峻烈な姿を再び見て、ゆっくり走らせていた自転車をわたしは停めました。

「どうしたの、みっちゃん？」アキラも自転車を停めました。

「アキラ——おまえ、先に帰んな」わたしは単刀直入に言い渡しました。「独りで帰れるよな？」

「オレ独りで？」アキラは少し心細くなったようでしたが、「帰れるよ」と答えました。「でも、みっちゃんは？」

「オレさ……」わたしはさすがに言い淀みました。いくら相手が親しいアキラでも、自分の常識外れの計画を打ち明けるのはばつが悪かったのです。「オレ、23号の結界に泊まることにする」

「えー!?」アキラは信じられないといった大声を上げました。「あの林の中ってこと？」

「当然」③わたしは気恥ずかしさで、逆に高圧的になっていました。「悪いかよ？」

「だってさ……」アキラはどう反応したらよいのか判らないようでした。「それじゃ野宿じゃなか。風邪ひいちゃうよ？」

「結界の中心に寝てれば、ピラミッド・パワーで平気さ。風邪なんかひかないって」

「みっちゃん、鉄塔にピラミッド・パワーなんかないよ」アキラは急に現実的になりました。
「キャンプの用意なんかして来なかったんだろ？」

「食料がある」わたしは自転車のバスケットを膝で蹴りました。「水だってある」

「そんなの、キャンプの用意じゃないじゃん」

「夏なんだから、テントや毛布なんか要らねえよ」

「そんなことないよ。夜は寒いんだ。オレ、前に伯父さんとキャンプしたとき、夜寒くってさー」

「山に行ったから寒かったんだろ？ここは山じゃないぜ」

「山じゃなくて、海に行ったんだよ」

「海は水がいっぱいあるから寒かったんだ」

「ここにだって、川があるぜ」

「川と海じゃ、全然違うぞ」

「——みっちゃん、帰ったほうがいいんじゃないか？」アキラは静かに忠告しました。その語調は、アキラが真剣に考えていることを物語っていました。「いっしょに帰ろうよ」

④「オレは残る」わたしは意地になって言い張りました。

アキラがわたしの計画に全く共感していないことで、わたしにはアキラの鉄塔への愛情の薄さが暴露された思いでした。それは同時に、鉄塔を愛するわたしへの理解も薄いことを意味していました。程度の差はあれ自分の共感者であり理解者であり、そして鉄塔調査隊の副隊長だと期待していたアキラの裏切りめいた態度に、わたしは腹立たしささえ感じ始めていました。

「オレはここに残って、明日の朝、また鉄塔調査の続きに出かける。それから、鉄塔の2号や1号に行つて、原子力発電所を見るんだ」

アキラは何も言いませんでした。

「おまえだけ先に帰れよ。ホントに夜になってきたぞ」

空は群青色から藍色に深まり、ゆるい川風が揺れ、田畑のあちこちで虫の音が高くなっていた。既に蟬の声は小さく跡切れそうでした。

「みっちゃん」アキラが遠慮ぐみに口を切りました。「じゃあさ、オレ帰る」

「そうしろよ」わたしにはもう引き止める気はありませんでした。

「みっちゃん、気をつけてな」アキラは右手を差し出しました。「いつしよに行けなくてゴメンな」

わたしはその手を取りました。「握手。——アキラ、本当はおまえと行きたかったんだ。原子力発電所」

「オレもだよ」アキラは握った手を何度も上下に振りました。「パンク直してくれて、ありがとう」

「気にすんなよ」

「じゃあね」アキラはペダルに足を掛けました。「明日、帰ってくる？」

「もちろん」わたしは頷きました。「絶対帰るよ」

「バイ」アキラはペダルを踏み込もうとしました。

「待て」わたしは、走り出そうとしたアキラを呼び止めました。「いいか——、帰り道は、ずっと鉄塔を辿ってくんだぞ。鉄塔と電線を順番に辿ってけば、絶対迷子にならないんだからな」

「OK」アキラは静かな声で答えました。「わかってる」

「鉄塔は地図と同じなんだ」⑤ わたしは息急き切って続けました。

「オレ今まで、幼稚園に入る前から、何回も迷子になったことがあるけど、鉄塔を目印にして切り抜けたんだ。だから鉄塔を目印にしていけばいいんだ」

「大丈夫だよ」アキラは自転車をゆっくり走らせました。「バイ、みっちゃん」

「バイ」わたしは小さく手を振りました。

「バイ——」

アキラは手を振りながら走り去り、やがて夕闇へ紛れてゆきました。

（銀林みのる「鉄塔 武蔵野線」（ソフトバンク文庫）より）

* 孤高…ひとりで 志を貫く様子

* 峻烈…厳しく激しい様子

問一・傍線部①「おまえ、またここまで来る気ある？」と「わたし」が尋ねた理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 22号鉄塔に来るまでかなり疲れてしまったので、また来ることは避けたいと思ったため。

イ 今のうちにまた来ることを約束してしまわないとアキラが忘れてしまうのではないかと不安に思ったため。

ウ アキラが気を変えてしまい、自分を無理やり家に帰そうとしているのではないかと疑わしく思ったため。

エ 今日帰ってしまうとアキラがもう自分の調査に付き合ってくれない気がして、不安に思ったため。

問二・文章中の□に入る言葉として適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 単調さ

イ 鋭さ

ウ 曖昧さ

エ 明瞭さ

問三・傍線部②「崩れ去った夢が悔いのようにわたしを撃ちました」とは、「わたし」のどのような気持ちを表していますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 1号鉄塔と原子力発電所での情景を見ることができなかったことにより、撃たれたかのようにひどく傷ついた気持ち。

イ 昼がもう少し長かったら1号鉄塔と原子力発電所での情景をアキラといっしょに眺め
たのに、それが達成できず悔しい気持ち。

ウ 1号鉄塔と原子力発電所での情景をいっしょに眺めたかったのは自分だけだったとい
うことに気づき、アキラを誘ったことを後悔している気持ち。

エ 1号鉄塔と原子力発電所での情景を想像し、それが手の届かない対象となってしまう
たことを歯がゆく思う気持ち。

問四、傍線部③「わたしは気恥ずかしさで、逆に高圧的になっていました」について、次の問い

に答えなさい。

(1) 「高圧的」は、この文章中でどのような意味で使われていますか。次から適切なものを
一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の意見に自身がないため、見栄を張っているさま。

イ 自分の考えを相手に理解してもらえず、腹を立てているさま。

ウ 自分を信じて疑わず、相手に対して威圧的になるさま。

エ 自分の意見で相手が驚いたので、得意げになるさま。

(2) なぜ「逆に高圧的」になったのか、文章中の言葉を使って五十文字以内で答えなさい。

問五、傍線部④「オレは残る」わたしは意地になって言い張りました」という表現は、「わた

し」のどのような気持ちを表していますか。次の文に当てはまるように、文章中の言葉を
使ってそれぞれ二十文字以内で答えなさい。

「わたし」はアキラが (1)) と思っていたのに、実際はそうではなかつ
たため、 (2)) と感じたから。

問六、傍線部⑤「わたしは息急き切って続けました」とありますが、このときの「わたし」の気

持ちの説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア アキラを一人で帰ってしまうことに責任を感じているので、せめて道に迷わないようアドバイスをしように思っている。

イ アキラが安全に帰れるか心配しながらも、一人で夜を過ごす自分自身の不安な気持ちを静めようとしている。

ウ 本当にアキラが帰ってしまうのかと驚き、なんとか話を続けて引き止めようとしている。

エ アキラが一人で帰れるか不安になりつつ、自分も一人きりの夜を安全に過ごせるよう気を引き締めている。

問七. この文章を通して、「わたし」のアキラへの気持ちはどのように変化しましたか。次の説明を正しい順に並び替え、記号で答えなさい。

ア 自分の考えには共感してくれなかったものの、調査と一緒にしたことで仲間意識を持っている。

イ 自分が思っているほどアキラは調査に興味がないことがわかり、失望している。

ウ 自分の調査を理解してくれる相手として認識しており、信頼している。

エ 自分の計画に冷静に反論され、怒りを覚えている。

オ これ以上言っても自分の考えに同意してくれないのだとわかり、あきらめている。

[illegible][illegible]

			三
		問二	問一
(3)	(1)	(1)	(1)
	絶		漢字
語		(2)	
道	絶		記号
(4)	(2)		(2)
	前		漢字
	代		
寒			
			記号
温			

	二
$\frac{4}{(1)}$	1
$\frac{4}{(2)}$	2
	3

	—
4	1
5	2
	3

[illegible][illegible]

解答

一 1 そうさい 2 けっぱく 3 そふぼ 4 はぶ 5 ひき

二 1 的中 2 博識 3 快く 4 (1) 治める (2) 修める

三 問一 (1) 仏・エ (2) 木・ア 問二 (1) 鼻 (2) 手

問三 (1) 体・命 (2) 未・聞 (3) 言・断 (4) 三・四

四 問一 イ 問二 ウ 問三 エ

問四 「モノが人を幸せにした時代」：協調性

「モノだけでは幸せにならない時代」：社交性

問五 イ 問六 心からわかりあう可能性のない人びと

問七 これまでは、心からわかりあえることを前提とし、最終目標としてコミュニケーションというものを考えていたが、これからは、価値観や文化的な背景の違う人びとも共有できる部分を広げていく能力が求められている。(100字)

問八 ウ 問九 ア 問十 (自由記述)

五 問一 エ 問二 ウ 問三 イ 問四 (1) ウ

(2) 自分の常識はずれな計画を打ち明けるのは恥ずかしかったが、それをアキラに気付かれなくなかったから。(48字)

問五 (1) わたしの計画に共感し理解している(16字)

(2) 裏切られた気持ちになり腹立たしい(16字)

問六 イ 問七 ウ↓イ↓エ↓オ↓ア

問二 の前後を見ると、前で述べていた内容と反対のことを後ろで述べていることがわかる。《↓ウ》

第10段落..今までは「価(か)価値(ち)値観(かん)観を一つにするコミュニケーション能力(のう能力(りよく)力)」を求められていたこと↓
↓新しい時代には、もう日本人はバラバラであること

ある

↓演(えん)演劇(げき)劇人(げきじん)人には「社(しゃ)社交(しゃこう)交性(こうせい)性」は

新製品を次々と作らないと世界から置いていかれてしまう可(か)可能(のう)能性(せい)性や、ヒット商品を生み出し続けないと家電会社は巨(きょ)額(がく)額の赤字を抱えてしまうことについては、文章中の内容ではない。《↓× ア、ウ》

「人びとはバラバラなままで生きていく」という記(き)記述(じゆつ)述はあるが、そのためにそれぞれの価(か)価値(ち)観(かん)に合った商品を作り続けなければいけないとは言っていない。《↓× イ》

問四 傍(ぼう)傍線部②「モノが人を幸せにした時代」では、「巨大(きよだい)大きな物欲(ぶつよく)欲が消費(うなが)を促(うなが)し、企業(きぎよう)企業はそこから利潤(りじゆん)利潤を上(う)げ、その利潤(りじゆん)利潤が労働者にも還元(かんげん)還元されて、さらなる消費に結びつく」成長社会が存在したことが第2段落で説明されている。つまり、「いままで」の日本社会について語られているので、「価値観(かちかん)価値観を一つにする方向のコミュニケーション能力(のうりよく)能力」である「協(きよう)協調(ちよう)調性(せい)性」が求められていた時代である。一方で、傍(ぼう)傍線部④「モノだけでは幸せにならない時代」では、「人びとはバラバラなままで生きていく。価値観(かちかん)価値観は多様化する」と述(の)述べられている。こちらは、「バラバラな人間が、価値観(かちかん)価値観はバラバラなままで、どうかしてうまくやっていく能力(のうりよく)能力」である「社(しゃ)社交(こう)交性(せい)性」が求められている。

問五 「バラバラな人間が、価値観(かちかん)価値観はバラバラなままで、どうかしてうまくやっていく能力(のうりよく)能力」とは、第13段落から「社(しゃ)社交(こう)交性(せい)性」であることがわかる。第22段落において、「これからの教育が子どもたちに授(さず)授けていかなければならないのは、この「社交性(しゃこうせい)社交性」の方なのではないか」と述べられているので、筆者にとって社(しゃ)社交(こう)交性(せい)性を得ることは好ましいことだと考えられる。《↓× ウ、エ》その後、第16段落で「しかしこの社交性(しゃこうせい)社交性という概念(がいねん)概念は、これまでの日本社会では「上辺(うへ)だけのつきあい」「表面上の交際(こうさい)交際」といったマイナスのイメージがつきまとった」と語られている通り、この概念(がいねん)概念のイメージは前(ぜん)前時代的であることがわかる。筆者はそのようなコミュニケーション観(かん)観を転(てん)転換(かん)換させると第17段

落で述べていることを読み取ると、最も適切な選(せん)選択(たく)択肢(し)肢を選ぶことができる。《↓イ》

「バラバラな人間が、価値観(かちかん)価値観(かちかん)価値観はバラバラなままで、どうにかしてうまくやっていく能力(のうりよく)能力」が求められ、社(しゃ)社交(こう)交性(せい)性を授(さず)授けることを好ましいこととは言っているものの、「日本人は積極的にその能力(のうりよく)能力を開花させていくべき」とは言っていない。また、第22段落で社交性(しゃこうせい)社交性を「プラスαの能力(のうりよく)能力」と言っている通り、日本人がそもそも筆者の述べる社交性(しゃこうせい)社交性を持つているとは言い難(がた)難い。《↓×ア》

問六 「価値観(かちかん)価値観や文化的な背景(はいけい)背景の違(ちが)違う人びと」とは、すなわち第19段落で例(れい)例示(じ)示されている「パレスチナの子どもたち」や「アフガニスタンの人びと」のことである。これらの人びとは、第18段落で指摘されている「シマ国・ムラ社会の論理(ろんり)論理」では、「心からわかりあう可能性(かのうせい)可能性のない人びと」としてあらかじめ排(はい)排除(じょ)除されると説明されている。

問七 設(せつ)設問(もん)問文(ぶん)文「これまでの日本社会が持っていたコミュニケーション観(かん)観の転(てん)転換(かん)換を踏(ふ)踏まえて」に注意して、転換(てんかん)転換の前後両方に触(ふ)触れるようにする。日本人のコミュニケーション観(かん)観の転換(てんかん)転換前は、第16段落で触れられている通り、「心からわかりあう関係を作りなさい」「心からわかりあえなければコミュニケーションではない」と教えてられてきた」とされている。第17段落では、筆者が「心からわかりあえないんだよ、すぐには」「心からわかりあえないんだよ、初めからは」と伝えている通り、心からわかりあうことを前提(ぜんてい)前提としないコミュニケーション能力が転換(てんかん)転換後には求められていることがわかるため、これらの点をまとめる。参考にする本文の箇(か)箇所(しょ)所が見つけれない場合は、設(せつ)設問(もん)問の「コミュニケーション観(かん)観の転換(てんかん)転換」という言葉を手掛かりにして、似た表現が使われている文中の箇(か)箇所(しょ)所を探してみよう。

問八 文章全体の流れを踏(ふ)踏(ふ)まえて考えると、まず、人々の価(か)価(か)値(ち)値(ち)観(かん)観(かん)が
多様化していることを家電の例と共に説明している。しかし、そのようにバラバラなまま
では人間は社会生活を営めないため、必要なコミュニケーション能(のう)力(りょく)力(りょく)の
質(しつ)が「協(きょう)調(てう)ち(ち)ょう(てう)調(てう)性(せい)性(せい)」から「社(しゃ)交(こう)交(こう)性(せい)性(せい)」へと変
化していると筆者は述べている。その後、自らの演(えん)劇(げき)人(じん)人(じん)としての経
(けい)験(けん)験(けん)や、高校生に伝えたことを踏(ふ)踏(ふ)まえ、社(しゃ)交(こう)交(こう)性(せい)性(せい)の
概(がい)念(ねん)念(ねん)について触(ふ)触(ふ)れ、最後には国(こく)国(こく)際(さい)際(さい)化(か)していく現代社会で
は協(きょう)調(てう)ち(ち)ょう(てう)調(てう)性(せい)性(せい)だけでなく社(しゃ)交(こう)交(こう)性(せい)性(せい)を身に着け
ることが重要であると伝えている。第18〜20段落では、心からわかりあうことを前(ぜん)
前提(てい)提(てい)とするのではなく、わかりあえなくても「共通できる部分を見つけて、それを
広(ひろ)げていく」能(のう)力(りょく)力(りょく)が現代は求められていると論(ろん)論(ろん)じている。《→
ウ》

協(きょう)調(てう)ち(ち)ょう(てう)調(てう)性(せい)性(せい)だけでなく社(しゃ)交(こう)交(こう)性(せい)性(せい)も持つて
接(せつ)接(せつ)することや、その能(のう)力(りょく)力(りょく)によって国(こく)国(こく)際(さい)際(さい)社会
の問題が回(かい)回(かい)避(ひ)避(ひ)できる可(か)可(か)能(のう)能(のう)性(せい)性(せい)については述(の)述(の)べら
れているが、「価(か)価(か)値(ち)値(ち)観(かん)観(かん)や文化的な背景(はいけい)背景(はいけい)の違(ちが)違(ちが)う
人(ひと)びと」を「心から理(り)理(り)解(かい)解(かい)」できるかは第18段落で否定されている。《→
× ア》

価(か)価(か)値(ち)値(ち)観(かん)観(かん)が多様化する社会でシマ国・ムラ社会の論(ろん)論(ろん)理(り)理(り)
を取り除(のぞ)除(のぞ)くべきであるという内容は第18段落からわかるが、筆者はそれによ
り「どうにかして共有できる部分を見つけて、それを広げていくこと」が重要であ
ると主張しているので、「人(ひと)びとは心からわかりあえる」とは言っていない。《→×
イ》

日本人はこれからどんどんとバラバラになっていくということは書かれているが、
「社交性(しゃこうせい)社交性(しゃこうせい)を持った人(ひと)びとがいろいろなことを決めていくのでは
ないか」という主張はされていない。《→× エ》

問九 この文章は、例(れい)例示(れいじ)示(じ)(第1～5段落)、日本社会の多様化(第6～13段落)、「協(きょう)調(ちょう)性(せい)性(せい)」から「社(しゃ)交(こう)性(せい)性(せい)」への変化(第14～15段落)、「社(しゃ)交(こう)性(せい)性(せい)性の概(がい)概(がい)念(ねん)念(ねん)が持つべき意味(第16～18段落)、社(しゃ)交(こう)性(せい)性(せい)性と国(こく)国際(こくさい)際(さい)関係(かんけい)の関連(第19～22段落)というように五つに分けられる。《↓ ア》

問一 傍(ぼう)線(せん)部(ぶ)の前の場面に着目すると、夜になってしまうことを理由にアキラが「わたし」に家に帰ることを提案(ていあん)提案(ていあん)している。それに対して「わたし」は残念(ざんねん)残念(ざんねん)な気持ちを口(くち)にしているが、アキラは「また来ればいいよ」と提案(ていあん)提案(ていあん)しており、「わたし」がこの探(たん)探(たん)索(さく)索(さく)に対して後(うし)後(うし)髪(がみ)髪(がみ)を引かれる思いになっていることがわかる。また、傍(ぼう)線(せん)部(ぶ)の直後を読むと、「わたし」は「重い抑(よく)抑(よく)揚(よう)揚(よう)」でアキラに尋(たず)尋(たず)ねており、アキラが本当にまた来る気があるのかを不(ふ)不(ふ)審(しん)審(しん)に思っていることがわかる。《↓ エ》

「また来ることは避(さ)避(さ)けたい」や「アキラが忘(わす)忘(わす)れてしまうのではないかと不安に思った」とは読み取れない。《↓ × ア、イ》

アキラは夕(ゆう)夕(ゆう)闇(やみ)闇(やみ)が迫(せま)迫(せま)っていることを理由に帰宅を提案(ていあん)提案(ていあん)しており、無理やり「わたし」を帰そうとしているわけではない。また、それについて「疑(うたが)疑(うたが)わしく思った」ことは読み取れない。《↓ × ウ》

問二 の直前に着目すると、アキラは「わたし」の問いかけに対して「——わからないなあ。そのときになってみないと」と曖(あい)曖(あい)昧(まい)昧(まい)な返答をしていることがわかる。《↓ ウ》

問三 傍(ぼう)線(せん)部(ぶ)の直前の内容から「崩(くず)崩(くず)れ去(さ)去(さ)った夢(ゆめ)夢(ゆめ)」とは「1号鉄塔と原子力発電所での情景をアキラといっしょに眺(なが)眺(なが)めること」であり、それが達成

できるなかったことが悔(く)や悔(く)しい気持ちとなって「わたし」を襲っているということがわかる。《↓ イ》

「悔(く)悔(く)い」とは表現しているものの、「ひどく傷(きず)傷(きず)ついた」とまでは言っていない。《↓× ア》

「1号鉄塔と原子力発電所までアキラと行きたかったのに、それはわたしの(いつ)一方(ほう)方的(てき)な思(おも)い込(こ)みに過(す)過ぎなかったただだったということに気付いた」とは述べているものの、アキラを誘(さそ)誘(さそ)ったことを後(こう)後悔(かい)悔(かい)している表現はない。《↓× ウ》

「歯(は)は歯(は)がゆい」とは、自分の思うように事が進まず、それによってイライラする気持ちを指す。確かに「わたし」はアキラと1号鉄塔と原子力発電所での情景を眺(なが)眺(なが)めたいとは思っていたものの、それが吐(かな)吐(かな)わずいら立ってはいない。また、「悔(く)悔(く)い」の要素に触(ふ)触(ふ)れていない。《↓× エ》

問四(1) 「高(こう)高(こう)圧(あつ)圧(あつ)的(てき)的(てき)」とは、人を威圧し押さえつけようとする様子を指す。《↓ ウ》

問四(2) 傍(ぼう)傍(ぼう)線(せん)部の前後から、自分の常(じょう)常(じょう)識(しき)識(しき)外(はず)外(はず)れの計画に對するアキラの反応に對して「わたし」は氣(き)氣(き)恥(は)恥(は)ずかしさを感じたものの、何が問題なのかと逆(さか)逆(さか)に圧(あつ)圧(あつ)をかけている状(じょう)状(じょう)況(きょう)況(きょう)が読み取れるため、それを具体的に説明する。

問五 ここまでの文章を読み取ると、「わたし」はアキラを自分の探(たん)探(たん)索(さく)索(さく)に共感(きん)感(かん)し理(り)理(り)解(かい)解(かい)してくれる相手として評(ひょう)評(ひょう)価(か)価(か)していたが、アキラが帰(かへ)ることを提(てい)提(てい)案(あん)案(あん)したこと、それが自分の(いつ)一方(ほう)方的(てき)な思(おも)い込(こ)みであったことに気付く。さらに、そのような態(たい)態(たい)度(ど)度(ど)に對して「わたし」は「腹(はら)腹(はら)立(た)立(た)しさえ感じ始めていました」と表現されている。従(したが)って、この感情の変化の(1)前と(2)後をそれぞれ指定された文字数に沿(そ)沿(そ)って埋(う)埋(う)める。

問六 走りだそうとするアキラに向かって、「わたし」はまず「帰り道は、ずっと鉄塔を辿（たど）辿（たど）ってくんだぞ。鉄塔と電線を順（じゅん）順（じゅん）番（ばん）番（ばん）に辿（たど）辿（たど）ってけば、絶（ぜっ）絶（ぜっ）対（たい）対（たい）迷（まい）迷（まい）子（ご）子（ご）にならないんだからな」と声をかけた。それに「わかってる」と答えたアキラに、「わたし」はさらに「だから鉄塔を目（め）目（め）印（じるし）印（じるし）にしてほしいんだ」と助言する。ここまで付き合ってくれたアキラに対して、暗い夜道を帰れるか心配してかけた言葉だ。同時に、目（め）目（め）印（じるし）印（じるし）の探（さが）探（さが）し方を続けざまに声に出すことで、これから一人で行動する自分自身の不安を紛（まぎ）紛（まぎ）らわせているとも受け取れる。《↓ イ》

アキラが安全に帰れるようにアドバイスをしていることだけでなく、自身の不安を落（お）ち着（お）かせようとしていることにも触（ふ）触（ふ）れる必要がある。《↓× ア》

文章中に「わたしにはもう引き止める気はありませんでした」とあるため、「わたし」がアキラが帰ってしまうことに驚（おどろ）驚（おどろ）いたり、引き止めようとする事はない。《↓× ウ》

「一人きりの夜を安全に過（す）過（す）ごせるよう気を引き締めている」ことは読み取れない。《↓× エ》

問七 文章全体の流れを読み取って解(かい)解答(とう)答(とう)する。

アキラが帰ることを勸(すす)めるまで、「わたし」は「自分の踏(とう)踏査(さ)査探(たん)探索(たん)索(さく)の成(せい)成果(か)果を確(かく)確認(にん)認したり評(ひよう)評価(か)価してくれる相手が欲(ほ)欲しかったこともあって、1号鉄塔と原子力発電所までアキラと行きたかった」と言っている。《↓1番目 ウ》

アキラがまた調査に参加する気がないとわかり、「わたし」の信頼が裏(うら)裏切(ぎ)切られたため、「鉄塔を愛(あい)愛するわたしへの理(り)理解(かい)解も薄(うす)薄いことを意味していました」とアキラへの失望を語っている。《↓2番目 イ》

23号鉄塔に残ると言い出した「わたし」の計画に冷静(れいせい)冷静に反(はん)反論(ろん)論されたことで、「鉄塔調(ちよう)調査(さ)査隊(たい)隊の副(ふく)副隊(たい)隊長(ちよう)長だ」と期待していたアキラの裏(うら)裏切(ぎ)切りめいた態(たい)態度(ど)度に、わたしは腹(はら)腹立(だ)立たしささえ感じ始めていました」とある通り、怒りを感じている。《↓3番目 エ》

その後、帰るといふ決(けつ)決断(だん)断をしたアキラに対し、「わたしにはもう引き止める気はありませんでした」と語られていることから、「わたし」の計画に賛(さん)賛成(せい)成しないアキラへのあきらめの感情が読み取れる。《↓4番目 オ》

最後に、二人が握(あく)握手(しゅ)手をしていることや、「アキラ、本当はおまえと行きたかったんだ」「オレもだよ」という会話から、アキラに対して仲間意(い)意識(しき)識を持っていることがわかる。《↓5番目 ア》